

令和6年奥能登豪雨 派遣職員の活動報告 [石川県珠洲市]



[概要]

福井県では令和6年9月21日に奥能登地方に大雨特別警報が発令された直後から県職員、市町職員を珠洲市に派遣しました。10月19日までに240名の職員が、避難所運営や被害家屋調査、ドローンを使った被害状況調査、堆積土砂の処理検討など、復旧・復興への支援を行いました。

また、福井県から毎日ボランティアバスを運行し、700名を超える県民の皆様が珠洲市にてボランティア活動を継続されています。

被災地で支援してきた県職員、市町職員活動の一部を紹介します。



9月22日会議状況

[避難所運営支援]

派遣先 珠洲市大谷小中学校
県嶺南振興局二州農林部 主任 新海 隆介 10/3～10/7
福井市危機管理課 副主幹 山田 馨子 //

《現地での活動内容》

地域の避難所となっている大谷小中学校（主に体育館）での避難所運営支援でした。活動内容は多岐に渡りました。

物資の要請受入、入退去者の把握、避難所の清掃片付け、災害看護師の補助、マスコミ対応など幅広いものでした。

期間中には、石破総理、公明党石井代表など政府要人のほか、福井県の杉本知事の視察訪問を受けました。



石破総理来訪

《派遣を通じて感じたこと》

我々も平成16年福井豪雨をはじめ、近年まで何度も大雨災害を経験してきましたが、大地震からの復興途中の大雨という複合災害は、実被害はもとより、極めて大きな精神的疲弊をもたらしたことは想像に難くないと思います。

珠洲市は、高齢化率と高齢者のみ世帯比率が極めて高く、地域における避難所の役割が特に重要でした。こちらは単なる避難場所ではなく、市の出張所のような性格になり、地域の方々や遠方からの来訪者も、まずこちらに訪ねて来る形でした。

また、通常プライベートを保つため、段ボール等で高く仕切られる避難所ですが、ここでは皆さんの希望で低い仕切りでした。厳しい状況にあっても、笑顔を見せ、冗談を言い、お互いに声を掛け合う様子がありました。頭が下がると同時に、災害発生時の地域コミュニティの大切さを再認識しました。

特に避難所の代表として、ご自身も被災されながら地域を支えていた川端市議と丸山区長会長には、尊敬の念しかありません。

珠洲の皆様が、一刻も早く安心して生活できる暮らしに戻られるよう祈念すると共に、自分もいつでも支援者として再訪できるよう怠りなく日常準備してまいります。



避難所の方々と



避難所代表の方々と

令和6年奥能登豪雨 派遣職員の活動報告 [石川県珠洲市]



[被害家屋調査支援]

派遣先 珠洲市内
土木部砂防防災課 主任 竹内 知憲 10/11~10/15
あわら市監理課 主事 酒井 良之輔 //

《現地での活動内容》

奥能登豪雨により被害のあった家屋について、全壊・半壊等の被害の程度を確認するため、外観の損傷状況・傾斜度・浸水深を調査しました。

《派遣を通じて感じたこと》

市街地の調査は概ね終了しており、主に山間部に点在する家屋を担当した為、市内の複数の路線を行き来することができました。

山間部に向かう道中では、道路も河川も応急工事すらままならず、豪雨の爪痕を鮮明に残した箇所も多く、復旧への道のりの険しさを感じざるを得ませんでした。

ある山間部では土石流で広範囲に渡り家屋が埋塞した地区があり、重々しい気持ちで対象家屋を探していると、明らかに被災している家屋の片付け作業の手を止めて、案内してくれる地元の方が複数おり、「遠くから来てくれてありがとう」と言われた時には懐の深さに感服するとともに、正確な調査で少しでも恩を返さなければと強く思いました。

また、別の山間部ではどこを迂回しても通行止めで、右往左往していると、近くで作業していた地元の建設業者様が近くまでいける道路に車で案内してくれました。ここから3km山間道路を歩いた所に対象家屋があると聞いた時はやや気後れしましたが、そこに住んでいたおばあさんが毎週荷物を取りに歩いていて、罹災証明書の交付を待っているとも聞き、覚悟を決めて歩いて調査に向かったのもよい思い出です。

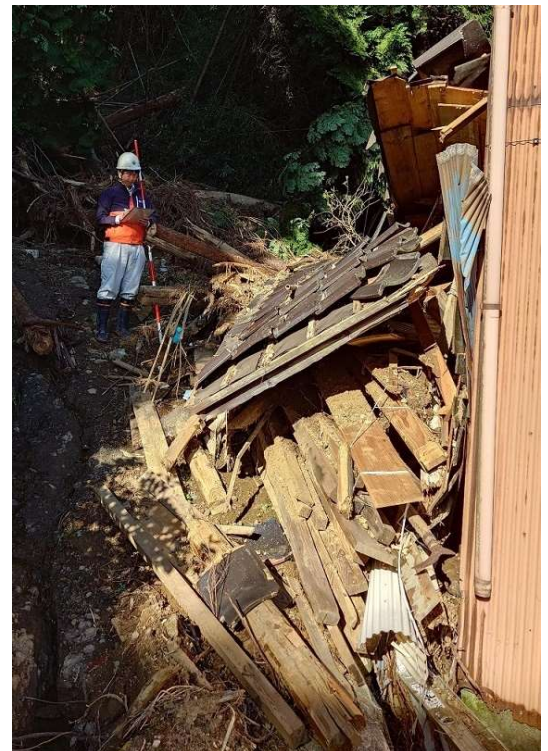
私達自身が力になれたかは分かりませんが、素晴らしい珠洲市全体の復旧・復興が1日も早く進むよう、地域に寄り添った息の長い支援が各方面で継続することを願っています。



床上浸水した家屋



土石流により1階部分が埋塞



土砂崩れにより倒壊



通行止め区間奥の調査家屋を目指す

令和6年奥能登豪雨 派遣職員の活動報告 [石川県珠洲市]



[ドローン調査支援]

派遣先 珠洲市内
土木部土木管理課 主任 朝井 範仁 9/23~9/25

《現地での活動内容》

令和6年9月能登半島大雨により被災した珠洲市において、道路・河川・住宅地・圃場等の被災状況をドローンにより撮影し早期に被災状況把握を行い、珠洲市、石川県、MAFF-SAT等への情報提供等の支援を実施しました。

私は、発災2日後の9月23~25日では珠洲市内にて6箇所の飛行調査を行い、その後福井県庁にて、後任の支援員が取得したデータをデジタルツインソフトウェア「TRANCITY」を活用し3次元データ解析を行う後方支援を行いました。

《派遣を通じて感じたこと》

珠洲市若山町中の被災現場において飛行撮影を行った際に、土砂撤去中の住民の方や、孤立集落への啓開作業を行う建設業従事者の方とお話しする機会がありました。笑顔で接していただいたことがとても印象的で、2度の被災でもめげずに立ち向かう現地の方々が楽になるよう、土木知識やIT技術を活用し役立つことはできないかという思いが強くなりました。

また、私自身も令和4年・5年の福井県内の大雨により、実家が2度の被災を受け、ボランティアの方々に助けていただいた経験から、恩義に報いたいという思いを抱いていました。

そこで後任と交代し福井県に帰った後も、現地で撮影した動画から3次元化解析を行い珠洲市へ提供することで、情報共有の早期化や現地計測の取り忘れ対策に有効となるのではないかと考え、後方支援を実行しました。

ドローンや3次元データの活用は、利用方法の簡略化や実施体制の構築などまだまだ課題も多いですが、今後もこのような取組を進め、支援上手な防災先進県になっていければと思います。

珠洲市の皆様が、満面の笑顔で暮らすことができるよう、これからも後方支援を続けていきます。



被災現場でのドローン撮影



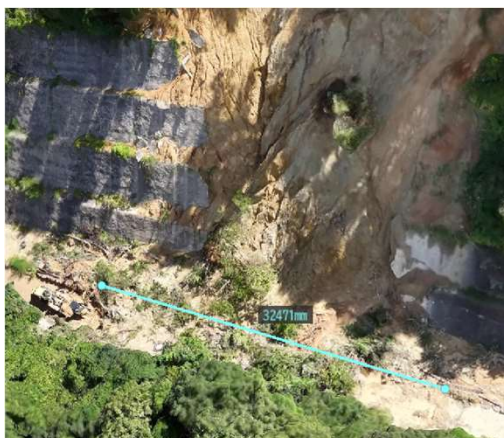
福井県庁での3次元データ解析



作成した3次元データ上での計測



福井県ドローンでの
情報収集支援HP



静止画上での計測

令和6年奥能登豪雨 派遣職員の活動報告 [石川県珠洲市]



[ドローン調査支援]

派遣先 珠洲市内
土木部河川課 企画主査 三田村 昌彦 10/13~10/17
農林水産部農村振興課 主事 窪田 京介 //

《現地での活動内容》

宅地に堆積した土砂の排除事業等を進めるにあたり、被害状況を把握のために、ドローンによる動画撮影を行いました。

珠洲市役所から撮影依頼のあった宅地を対象とし、3日間で30箇所の動画を撮影しました。

また、これまでのドローン調査支援職員が撮影した道路・河川・圃場等のデータと合わせて多目的に活用していただけるよう、珠洲市役所の関係課に成果として引き渡しを行いました。



被災現場でのドローン操縦

《派遣を通じて感じたこと》

2度の災害に見舞われ、多くの困難が続く中、珠洲市役所の職員の方々は休日も返上で懸命に業務に取り組んでおられました。その姿を見て、少しでも力になればとの思いで、5日間業務に従事させていただきました。

被災状況撮影のために、市内各地を車で回りましたが、倒壊したままの建物や、斜面崩壊・倒木・河川の氾濫などにより通行止めの道路、圃場に溢れ出たままの土砂等を見ると、復旧までの道のりの険しさを感じました。一方で、建設業関係の方々があちらこちらで復興作業に従事されている姿に勇気をもらいました。

珠洲市職員や関係者が集う会議においては、さまざまな理由で生活に苦しむ人々の現状を耳にし、まだまだ問題が山積みであり、大規模災害時の対応の難しさを改めて実感しましたが、そうした中においても、誰一人諦めることなく会議が進行していたことは特に印象的でした。また、珠洲市職員から「現地を直接確認することができないなか、ドローンにより全体の被災状況を把握することができ、詳細調査の早期着手に役立った」という言葉を頂いたときには、とてもうれしく思うとともに、もっと力になりたいと感じました。

派遣中、いくつかの飲食店で食事をしたり、お弁当を購入したりしましたが、このような状況とはとても思えないような店員さんの笑顔やおいしい料理に、逆にこちらが元気をもらいました。

珠洲市のみなさまに一刻も早く、落ち着いて生活できる日が来ることを心より願っています。そして、私たち自身もこの経験を通じて、今後の支援活動に活かしていきたいと思えます。



ドローンで撮影した宅地写真



珠洲市へ測量データ説明

珠洲市環境建設課、珠洲市産業振興課
福井県からの中長期派遣職員へ

令和6年奥能登豪雨 派遣職員の活動報告 [石川県珠洲市]



[堆積土砂排除支援]

派遣先 珠洲市内
土木部道路建設課 主任 千秋 智和 10/3～10/6

《現地での活動内容》

宅地等に堆積した土砂の排除事業を進めるため、以下の支援を行いました。

- ①令和4年の大雨による南越前町での災害復旧の事例を紹介し、初期の調査、災害査定に向けた資料作成、がれき混じり土砂の集積所での運営などのノウハウを支援しました。
- ②ドローンを活用した調査を行い、迅速に被害の全容を把握できるように支援しました。被害箇所の把握に多くの人員や時間を要することから、ドローンにより上空から土砂の広がり把握することで少人数で速やかに調査を進めることができました。
- ③都市計画区域内における堆積土砂量を効率的に算定するための方法として、測量データ（点群データ）や基盤データなどのマップデータを活用した算定方法を提案しました。
- ④国土交通省や環境省と調整を行い、集積所に集めている「がれき混じり土砂」の分け方などを検討し、円滑に災害申請ができるよう支援しました。土砂と家屋などのがれきが混じった「がれき混じり土砂」は、堆積土砂排除事業（都市災害）と災害等廃棄物処理事業に分け、各々災害申請する必要があります。そのため、重量や面積按分などの手法を用いますが、珠洲市の集積所での運用状況も踏まえたうえで最も適した方法を検討し提案しました。
- ⑤発災から災害査定までの対応やポイントを「初動対応マニュアル」にまとめ、共有しました。



珠洲市環境建設課へ本県事例を説明



国土交通省・環境省・石川県等との打合せ



ドローンによる調査結果
(赤色が土砂が堆積した範囲)

《派遣を通じて感じたこと》

今回の派遣を通じて、まず最初に、被災箇所が市全域の広範囲かつ甚大であるため、堆積土砂排除事業をご担当されている環境建設課の皆様のご苦勞は計り知れないものであると感じました。そのため、少しでも円滑に最小の労力で災害復旧が進むよう支援するため、災害復旧の制度をわかりやすく解説し伝えることや広範囲におよぶ初期調査を支援し速やかに被害の全容を把握することを重点的に取り組ませていただきました。

今回のように広範囲で甚大な被害が生じた場合は、様々な対応に追われ情報が錯そうし日々状況が変化するため現場対応が混乱しやすく、そのような状況において、がれき混じり土砂の分別対応など、きめ細かな対応を円滑に進めることは非常に難しいことです。そのためには、平常時から研修などを通じて制度に対する理解を深め、ロールプレイングなどにより初動対応を想定し訓練しておくことが大切だと感じました。

また、生活再建のためには宅地の土砂撤去作業を一刻も早く進めるべきではありますが、被害が広範囲かつ甚大であったため、宅地の土砂撤去作業があまり進んでいない状況でした。そのための備えとしては、ドローンなどによる被害の全容を速やかに把握する方法や、広域的な応援体制の構築、その機動的な運用を平常時に訓練しておくことが大切だと感じました。

珠洲市の皆様におかれましては、ご自愛いただくとともに、一日でも早く平穏な日常が取り戻せるようご祈念申し上げます。